

## 平成23年度 第2回鎌ヶ谷市消防委員会会議録

### 1 議題

議案1 平成23年度事務事業進捗状況

議案2 平成24年度予算（案）の概要及び事務事業について

議案3 その他

### 2 開催日時

平成24年2月8日（火曜日）10時00分から11時00分

### 3 開催場所

消防本部会議室

### 4 出席者

#### （1）委員

鈴木定夫委員（委員長）、長瀬正久委員（副委員長）、小宮山節子委員、阿部万里亜委員、若槻恵子委員、山田静雄委員

#### （2）事務局

皆川保則消防長、澁谷誠幸消防団長、川島正二郎次長、西村繁警防課長、高山悟予防課長、小川充鎌ヶ谷署長、皆川宏幸消防総務課長、矢ノ目健二庶務係長、湯浅貴朗主任消防主事、白井祐介主任消防主事

### 5 会議の公開 非公開について

公開

## 6 発言の要旨

- 皆川課長 委員会条例第5条による会議成立を報告、傍聴の申し出がなかったことを報告した。
- 皆川課長 委員会条例第5条の定めにより委員長が議長を務める事を伝え、鈴木委員長に挨拶を求めた。
- 鈴木委員長 あいさつ。
- 皆川課長 執行部として消防長へ挨拶を求めた。
- 皆川消防長 あいさつ。
- 皆川課長 事前申し合わせにより任期中は、継続として阿部委員と山田委員を署名人とすることを伝えた。
- 鈴木議長 議案1平成23年度事務事業進捗状況について、及び議案2平成24年度予算(案)の概要及び事務事業について説明を求めた。
- 矢ノ目係長 議案1平成23年度事務事業進捗状況について、職員研修、火災予防、救急救命、消防団、及び施設等について説明した。
- 議案2平成24年度予算(案)の概要及び事務事業について、常備消防費として一般人件費、消防事務に要する経費、消防庁舎の管理運営に要する経費、職員研修に要する経費、予防業務に要する経費、警防業務に要する経費、通信指令業務に要する経費、大規模災害応援に要する経費、非常備消防費として消防団運営に要する経費、また、消防施設費として消防救急無線共同デジタルアンテナ・車載無線・携帯無線整備事業、通信指令業務共同運用事業、消防本部庁舎耐震診断・改修事業、くぬぎ山消防署立替事業の内容を説明した。
- また、最近3カ年の火災状況、最近3カ年の救急出動件数、平成23年傷病程度別搬送人数の説明をした。
- 鈴木議長 各委員に質問を求めた。
- 山田委員 くぬぎ山消防署の建て替え事業について、以前は現敷地の中で建て替えを実施するものであったが、土地を新たに購入する方向で修正された経緯の説明を求めた。
- 皆川課長 現在は、現行庁舎より南東側の隣接地に520平米ほどの土地を購入し、約450平米の平屋建て庁舎を建設する予定。
- 経緯として、平成20年度に耐震診断を行い、IS値最低基準値が0.9のところ0.47と低い値であったため、平成23年度の実施計画で庁舎裏手側へ事務所棟を建設し、現行庁舎は3階部分を取り除き車庫棟として改修する方向で設計を行ったが、その結果、建設工事計画額の8,620万円を大きく上回る1億3,200万円の設計額が出てしまったため検討を行った。
- 現行庁舎は34年を経過しており、16年後に建て替えをしなければならないということと、その16年間の庁舎改修費用

に1億4,600万円ほど掛かるとの見込みであり、実施計画額と併せると総額2億7,000万円ほど要してしまう。そこで、隣地の所有者へ相談したところ、消防へ譲ってもよいという協力的な回答を得たため、隣地を購入し耐用年数40年以上の平屋建て庁舎の建設を検討した。

この場合、総額2億4,900万円ほどとなり、実施計画と比べ耐用年数が長くなるということと実施設計額より2,890万円ほど低く抑えられ、費用対効果が見込まれる。

なお、平成25年度から庁舎前の国道464号線の拡幅が計画されており、消防署の敷地が100平米ほど少なくなるが、隣地を購入した場合は車庫前の車両展開スペースが確保されるという利点もあり、隣地購入し建て替えを行うという方向へ修正した。

阿部委員 警防業務に要する経費の中で、消火栓補償という言葉があるが、どういう意味であるのか質問した。

西村課長 水道法により、市町村は消火栓を設置した場合、水道事業者に対しその消火栓の設置及び管理に要する費用を補償しなければならないと定められており、その消火栓の設置及び管理に要する費用が消火栓補償費である。

消火栓は水道局が設置する水道管に付随するもので、本来は水道局がカルキ抜きのために使用するものを消防が消火栓と定めて使用している。

市内には400mmから75mmの6種類の水道管が埋設されており、消防が消火栓とした場合、水道管の口径により設置費の金額が異なる。消火栓を1基移設すると、400mmで84万円、300mmで76万円、200mmで54万円、150mmで49万円、100mmで40万円、75mmで38万円掛かる。

消火栓は道路には消火栓と書かれた黄色い蓋、歩道にははしご車の絵が描かれた蓋が設置されている。水道局が管理するのは消火栓ではなく、排水栓と書いた青い蓋が設置されている。

また、消火栓を修理した場合は、300mmの消火栓で1基90万円、150mmで65万円の修繕費が掛かり、さらに、道路の修繕により道路の高さが変わった場合の消火栓の高さ変更もこの消火栓補償費を充てている。

予算が500万円ほどでは、要望があったもの全てを修繕することはできない状況であるが、これらの費用を年度末に水道局より請求があり支払わなければならないため、消火栓補償費として予算を設けている。

若槻委員 通信指令業務共同運用事業の内容の中で、メンテナンスリース契約を平成31年度末まで締結するとされているが、なぜ平成31年度末までの契約が必要なのか質問した。

小川署長 資料10ページの(2)の通信指令業務共同運用事業の手数料659,000円は、平成25年度に6市の通信指令業務共同運用に伴い、現在の鎌ヶ谷市の通信指令室がなくなり、その継続事務を行うための装置(県防災行政無線)を鎌ヶ谷消防署1階に移設しなければならない、その装置移設手数料である。

メンテナンスリース契約を平成31年度末まで契約しなければならない理由としては、6市の通信指令業務共同運用により、各市の消防ごとに通信指令設備を設置しなければならないが、単独で購入するよりも安価にメンテナンスを含む設備の設置ができることと、平成32年度からは東葛南地域を含む5市も集まり、11市で共同運用が開始される予定であるため、31年度までとしている。

小宮山委員 最近3カ年の火災状況の中で、平成23年中の火災は前年と比べて減少しているが、出火原因については、これを反映して変化しているのか、また、全国的にはどうなのか質問した。

高山課長 鎌ヶ谷市の火災件数については、昨年度に比べ8件減少しているが、平成22年中の主な出火原因は1位が放火(放火の疑い含)で9件、2位がコンロで6件、3位がストーブで4件となっている。

また、平成23年中の出火原因の1位は放火の8件、2位がたき火の3件、3位が火遊びの2件の順になっており、22年と23年を比較すると2、3位は若干の変化があるが、1位の放火にあっては変わっていない。全国の主な出火原因についても1位が放火、2位がこんろ、3位がたばこの順になっており、過去5年間変わっていない状況である。

長瀬委員 今回更新された高規格救急車は、鎌ヶ谷市では何台存在しているのか。また、高規格救急車とはどういった車両なのかを質問した。

皆川課長 鎌ヶ谷市の高規格救急車は4台で運用しており、全ての消防署に配備している。車検等の整備時に対応するための1台を含めると、全部で5台存在する。高規格救急車は救急救命士が取り扱うことができる高度救命用資器材を積載しており、高度な処置を施しながら医療機関へ搬送することができる車両である。

鈴木議長 CAFS装置とは何か質問した。

皆川課長 水に少量の消火薬剤を加え、そこへ圧縮空気を送り込むことにより発泡させ、水の表面積を広げることで効率よく消火することができる装置である。従来の水量を5分の1に抑えることができ、水利の少ない場所での消火やマンション火災等での水損防止として有効な活動ができる。

鈴木議長 議案3その他について説明を求めた。

矢ノ目係長 議案3その他として、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う緊急消防援助隊の活動写真をプロジェクターに

より紹介した。

矢ノ目係長 平成24年度第1回消防委員会開催時間について、各委員に  
希望を聴取し、次回開催時間については午前中とした。

鈴木議長 各委員に質問を求めた。

各委員 異議なしの声が発せられた。

鈴木議長 議案、質問等が無く会議閉会を宣言した。

## 7 会議録署名人の署名

以上会議経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成24年3月12日

氏名 山田 静雄

氏名 阿部 万里亜